

執筆者紹介（執筆順）

- 宇野 茂樹 元大阪商業大学教授
森 泰博 関西学院大学名誉教授
高橋 哲雄 大阪商業大学名誉教授
片山 隆男 大阪商業大学経済学部教授
石井 寛治 東京経済大学経済学部教授
田崎 公司 大阪商業大学経済学部助教授
坂井 聰 財団法人古代学協会・古代学研究所助教授
神保 文夫 名古屋大学大学院法学研究科教授
石田 信博 同志社大学商学部教授
小倉 宗 京都大学大学院文学研究科博士後期課程
小田 忠 大阪商業大学商業史博物館学芸員
池田 治司 大阪商業大学商業史博物館学芸員
丸尾 佳二 大阪商業大学商業史博物館特別職員
鹿島 秀元 大阪商業大学経済学部助教授
- 運営委員（五十音順）
- 石上 敏 大阪商業大学経済学部教授
加賀田哲也 大阪商業大学総合経営学部助教授
瀧澤 秀樹 大阪商業大学経済学部教授
中野 安 大阪商業大学商業史博物館館長
西村多嘉子 大阪商業大学総合経営学部教授
林 妙音 大阪商業大学総合経営学部助教授

編集後記

最近、当紀要の掲載論文に対する問い合わせが各所からある。博物館の運営を担当する我々としては、何よりの喜びである。そんな中でも、掲載原稿をいち早く味読できる編集担当の特権を、今回ほど実感したことはない。

石井先生のインタビューでは、錚々たる東京大学経済史学の足跡を、先生の研究史を通して内側からつづさに知ることができたし、古代学研究所の坂井先生の発掘調査報告では、西暦七九年のヴェスヴィオ火山の噴火以来、一千数百年の時を経て、一七四八年から連続と発掘が続けられてきたイタリアのポンペイ遺跡の八カ所あるとされる城門のうち、ただ一つ未確認であったカプア門が実は存在しなかったという事実が明らかにされた。また、片山先生の論文では、戦後の質屋経営の実態が、生活実感も含めてリアルに描き出されており（例えば「質屋の奥さんは外で知人にあつて挨拶するのが難しい。挨拶すれば、その人がうちのお客さんと思われるといけないから。」というくだりにもそれが窺える）、エッセイとしても十分楽しめる内容であるし、『塵劫記』を題材にした鹿島先生の論文も、現代数学者の目で見たと和算の解説として面白い。（池田治司）

大阪商業大学商業史博物館紀要 第五号

平成一六年七月一〇日発行

編集・発行 大阪商業大学商業史博物館

〒577-8505 東大阪市御厨栄町四一―一〇

☎〇六（六七八五）六一三三九

印刷・製本 株式会社RPSセンター

〒537-0024 大阪市東成区東小橋一―二二二

☎〇六（六九八一）三五三三一